



岸本 拓也

生年月 1984年6月 京都府生まれ
最終学歴 同志社大学大学院工学研究科修了

業務経歴 2009年(株)建設入社
エンジニアリング部門
設備設計グループ
設備設計部
2011年
エンジニアリング部門
監理グループ 監理部
2013年
エンジニアリング部門
設備設計グループ
設備設計部所属

●担当した主なプロジェクト

2010年 テルモ富士宮西工場
2011年 茨城キリスト教大学
2012年 豊川市民病院
2013年 愛知県立芸術大学
音楽学部棟
2015年 石川テレビ放送メディア館
2016年 岡崎市民会館改修
2016年 ヤマハモーター・イノベーションセンター
2017年 石川県立中央病院
2019年 みたき総合病院

■青年技術者のことば

建築設備は建物の機能、使い勝手を左右する重要な役割を担っている。使い勝手の良い施設とは何か、設計者自らがこれを考えることが第一条件ではあるが、実際に施設を使用するクライアント、ユーザーの悩み、要望を聞き、それを設計に反映することがそれ以上に重要なことであると考えている。経験・知識・円滑なコミュニケーションをもって要望に応える提案を行い、迅速な処理を経て最適な案を導く。これにより安心感や信頼感のある、より使い勝手の良い施設を作ることが社会貢献につながると確信し、これを常々心がけ設計に取り組んでいる。これからもクライアント、ユーザーに寄り添い、その思いを実現できる設計者を目指したい。

■すいせん者

澤村晋次
(株)日建設
エンジニアリング部門
設備設計グループ ディレクター

石川県立中央病院 ー安心と癒しの提供ー



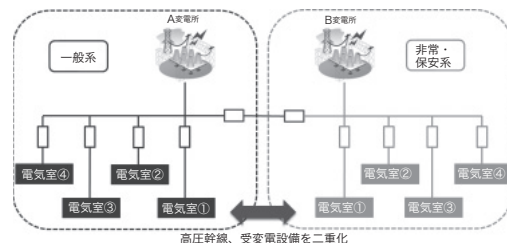
建物外観



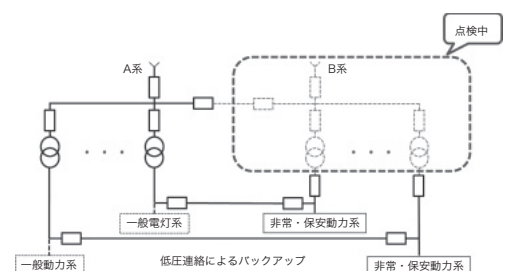
エントランスホール



エレベータホール



電源設備概念図

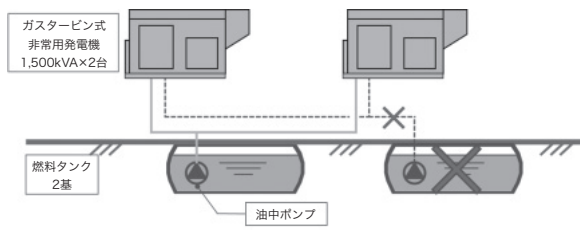


トラブル・メンテナンス時送電系統図

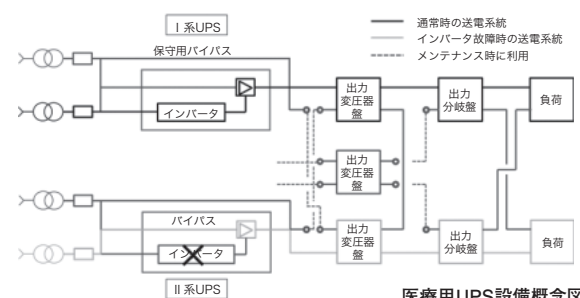
■電源系統の二重化による信頼性の向上

電力引込みから変圧器二次側までを二重化することで、一方の電源系統が何らかのトラブルで遮断された際でも他方の健全系統から送電継続可能としている。また受変電設備機器のメンテナンス時も長時間の停電を生じることなく送電継続が可能な構成とすることにより、石川県の基幹病院に相応しい電源の信頼性を確保している。電源設備の二重化により構内トラブ

ル・メンテナンス時の送電継続を確保するとともに、非常用発電機、UPS設備もトラブル・メンテナンス時対応として複数台設置して信頼性を向上させている。発電機は本体だけでなくオイルポンプ、燃料タンクも2基に分割して設置している。UPSは2重化するとともにバックアップ用出力変圧器盤を設置することにより、一方のUPS本体および変圧器の故障・メンテナンス時にもUPS電源を供給可能な計画としている。



非常用発電機設備概念図



医療用UPS設備概念図

■癒しを感じる照明計画

地元石川県民の生活に根付く「手のぬくもり」を感じられる伝統工芸を病院意匠に違和感なく取り込むために、それらを効果的に演出する照明手法として間接照明を積極的に採用している。癒しの空間を実現するための主役は展示作品であり照明器具が見えることがあってはいけないため、詳細な検討と原寸大模型による検証を経て完成に至っている。

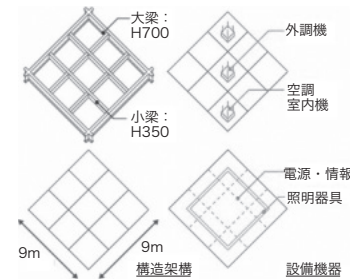
ヤマハモーター・イノベーションセンター ー魅せる設備ー



メカニカルな外観



魅せる内観



グリッド内の設備配置

■メカニカルに魅せる設備

ものづくりマインドをかきたてるメカニカルな設えを目指し、設備を「魅せる」ことに挑戦した。設備バルコニーを建物外周部に分散配置して最短距離でインフラ供給できる機能的な外観とした。内観においても魅せる設備への挑戦として、照明器具や空調機だけでなく、

電源や情報設備も通常のアクセスではなく上部からの供給とし、メカニカルな内観デザインの一役を担っている。

■高いフレキシビリティ

9m x 9mグリッドに整然と配置された各種設備は十分にメカニカルな空間を実現しているが、ライティングダクトや配線ダクトを利用した電源・情報設備は、各グリッドのどこからでも取

り出せるOAフロアに劣らない、高いフレキシビリティを備えている。また、照明計画においては大きなワンルームの中にペンダント照明を配置して意匠性を高め、コミュニケーションを誘発させるスポットを創出している。オフィスとはかくあるべきという基本理念を満足しながら、既成概念を覆す魅せる設備デザインで守りと攻めを両立させた。